

優秀賞 (公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞

警固公園周辺地区

■所在地：福岡県福岡市

■地区面積：約 1.1 ha

■応募者：福岡市、福岡大学工学部景観まちづくり研究室、アーバンデザインコンサルタント、警固公園対策会議

■地区の概要

福岡市中央区の警固公園はかつて園内の死角の多さから、若い女性を狙った性犯罪や夜間の騒音被害等が相次ぎ、犯罪の防止と迷惑行為の抑制が急務の課題となっていた。これを受け、同公園の再整備事業が実施され、平成 24 年 12 月にリニューアルオープンした。

本事業ではデザインコンセプトを「防犯と景観の両立」とし、単に見通しを良くする防犯対策にのみならず、周囲の景観や賑わいを考慮したデザイン提案がなされた。デザインプロセス上の仕組みとして、福岡県警、福岡市役所、地区住民等が一堂に会する「警固公園対策会議」が平成 22 年に発足、公園の治安対策に関わる現状や再整備の方針について協議・報告等がなされた。更に実施設計にあたっては、アドバイザーである福岡大学工学部景観まちづくり研究室によるヒアリング調査や利用行動調査等が実施され、デザイン提案に反映される等、官民連携による景観整備を実施した。

その結果、治安改善とともに人通りの増加、園内における利用者動線の広がり等が確認された。また再整備から 1 年後、隣接する商業ビルが公園の眺望を活かした外壁改修を実施し、以前からあったカフェに加え、ソラリア・プラザ内の他の珈琲店も公園側に移転、「警固公園が一望できるカフェ」として売り上げを向上させている。同じく隣接した警固神社の参拝客も増加するなど、警固公園の再整備による周囲への波及効果が確認された。

■審査講評

「警固公園周辺地区」の取組は、「再整備」「地域再生」という都市景観賞における新たな評価軸を切り拓くものである。1951 年に開設されたこの公園は、「公園内の見通しと動線を確保し防犯効果を向上し、周囲に広がる街の景観とにぎわいを公園の魅力として取り込む」ことを目的とし、従前の池や展望台を撤去し、生まれ変わった。福岡市・中央区・天神・大名地区住民・福岡大学で構成された「警固公園対策会議」の連携協力の賜物であるが、その効果を倍増させたのが、隣接する商業ビル（ソラリア・プラザ）の外壁のガラス化である。公園に背を向けていた施設が公園に開かれたことで空間の価値を高め、収益にも寄与するということを立証したことは大きな成果である。

負の資産となっていた公園が、世代を超えた市民の憩いの場として生まれ変わり、「地域の資産価値を高める」という公園本来の力を牽きだし、地域活性化につながった事例として波及効果が高い。

既存の樹木を残しつつ、十分な動線・実態調査に基づいて設計された芝生広場で多くの市民がゆったりと過ごす様子は、公園再生のあり方を示すものであり、優秀賞にふさわしいと評価された。(池邊)



公園の再整備を機にリニューアルオープンしたソラリアプラザ・カフェからの眺め。死角を形成し、性犯罪等の発生から立入禁止となっていた築山を撤去、中央園路を新設して園内外の視線交錯と動線促進を図った。



公園南側からみた新公園の様子。より広がった中央広場では市民や企業によるイベントが多数行われ、再配置した改修以前からの自然石ベンチならびに新設したみはらしの丘等、利用者の増加に繋がった。



演出照明の組み込まれたベンチ、築山撤去によって見えるようになった警固神社通りの歩行者とレンゾビル、リニューアルオープンしたソラリアプラザのファサードが園内の夜景を彩る。



改修前は人通りがほとんど無かった南側通路の現在の様子。老朽化とともに死角を形成し犯罪の温床となっていたトイレを移設。通路自体の線形も直線化し、加えて二重の柵が張られていた警固神社との境界部を改修した。